

行 動 す る 知 性。



ラーニングコモンズ

これまでとこれから

中央大学文学部 小山憲司

koyama@tamacc.chuo-u.ac.jp

2018年11月1日

図書館総合展2018フォーラム〈アクティブラーニング最前線〉
ラーニングコモンズとアクティブラーニング、そしてその次へ
@パシフィコ横浜

目次

- ラーニングコモンズとは
- ラーニングコモンズの現在
- ラーニングコモンズの抱える課題
- ラーニングコモンズのこれから

ラーニング・コモンズ (Learning commons)

大学図書館における、学びのための共有スペース。

情報のデジタル化が急速に進んだ1990年代、PCを配置し情報収集や学習などが行えるIT環境を大学図書館内に設置するインフォメーション・コモンズが米国で普及した。2000年代に入り、大学図書館の役割として、知識を深めるための資料・情報の提供だけではなく、**学生が自主的に学び知識を創造する学習活動全般への支援**が求められるようになり、大学内における**多様な活動や学習を支援するサービスを利用できる場の1つ**として図書館がラーニング・コモンズへと移行していった。

インフォメーション・コモンズの機能に加え、人数に合わせて自由に組み合わせられる**可動式の椅子や机、ホワイトボードやプロジェクター**などを備え、**ミーティングやプレゼンテーションを行うスペース**を提供する。また、情報・資料の収集やレポート作成などの支援を行う**スタッフを配置**し、セミナーを実施したり、多様なコミュニケーションを可能にする**カフェ**なども併設する。図書館サービスの在り方を変革するシステムとして、新しい図書館づくりの可能性を広げる。
(2012.9)

ラーニング・コモンズ (Learning commons)

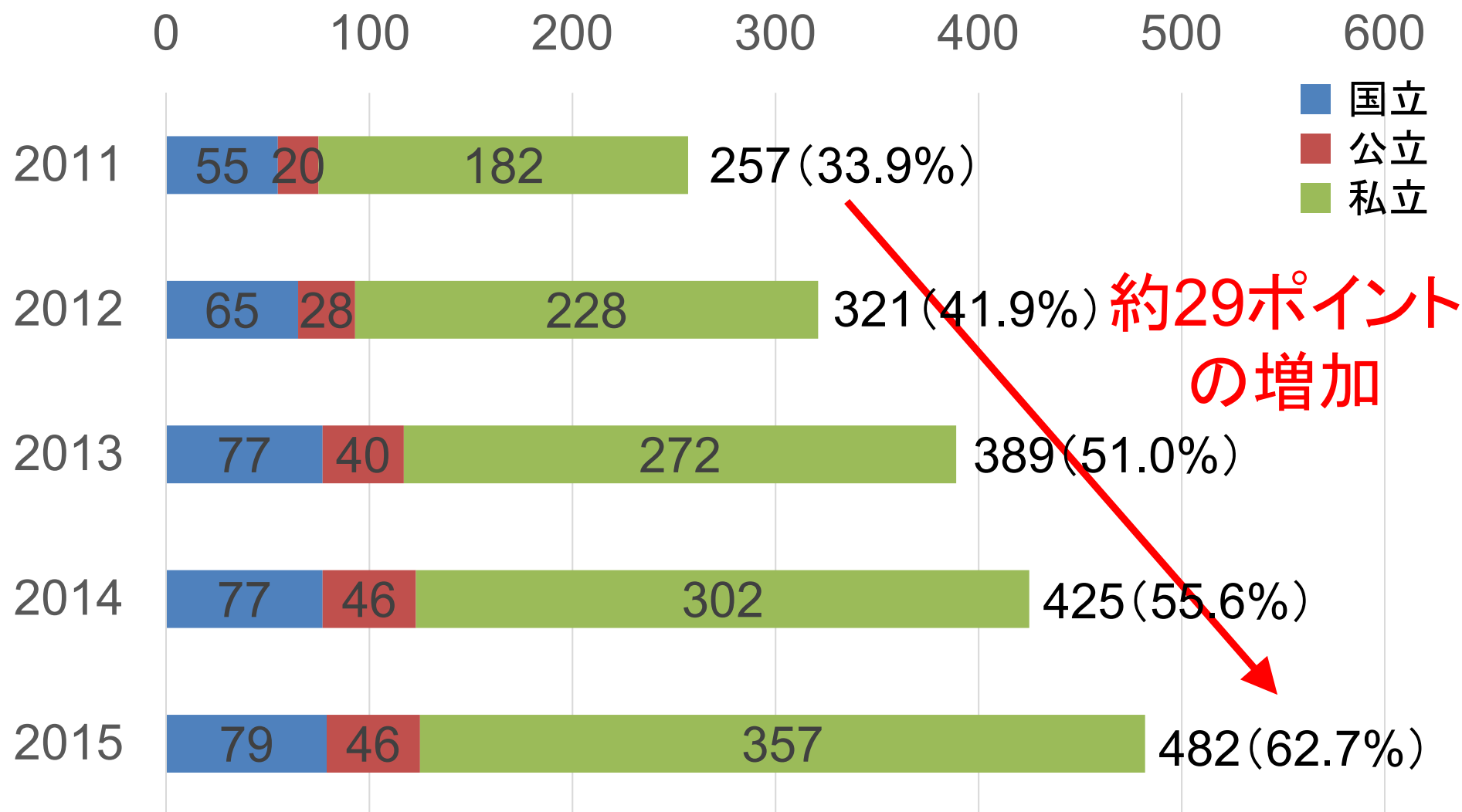
大学図書館における、学びのための共有スペース。

情報のデジタル化が急速に進んだ1990年代、PCを配置し情報収集や学習などが行えるIT環境を大学図書館内に設置するインフォメーション・コモンズが米国で普及した。2000年代に入り、大学図書館の役割として、知識を深めるための資料・情報の提供だけではなく、**学生が自主的に学び知識を創造する学習活動全般への支援**が求められるようになり、大学内における**多様な活動や学習を支援するサービスを利用できる場の1つ**として図書館がラーニング・コモンズへ

ICTの普及

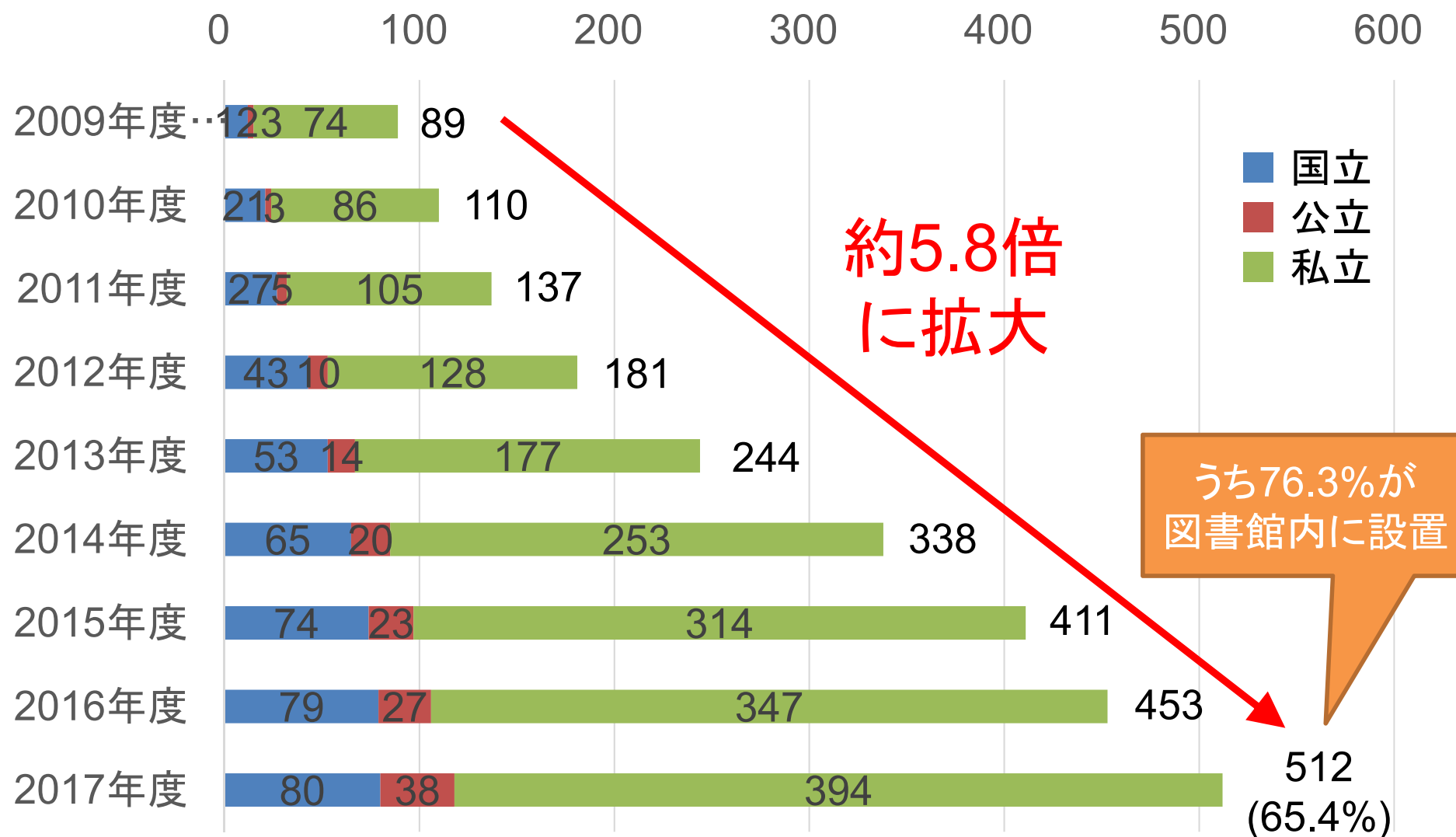
主体的な
学びの採用

ラーニングコモンズの普及状況



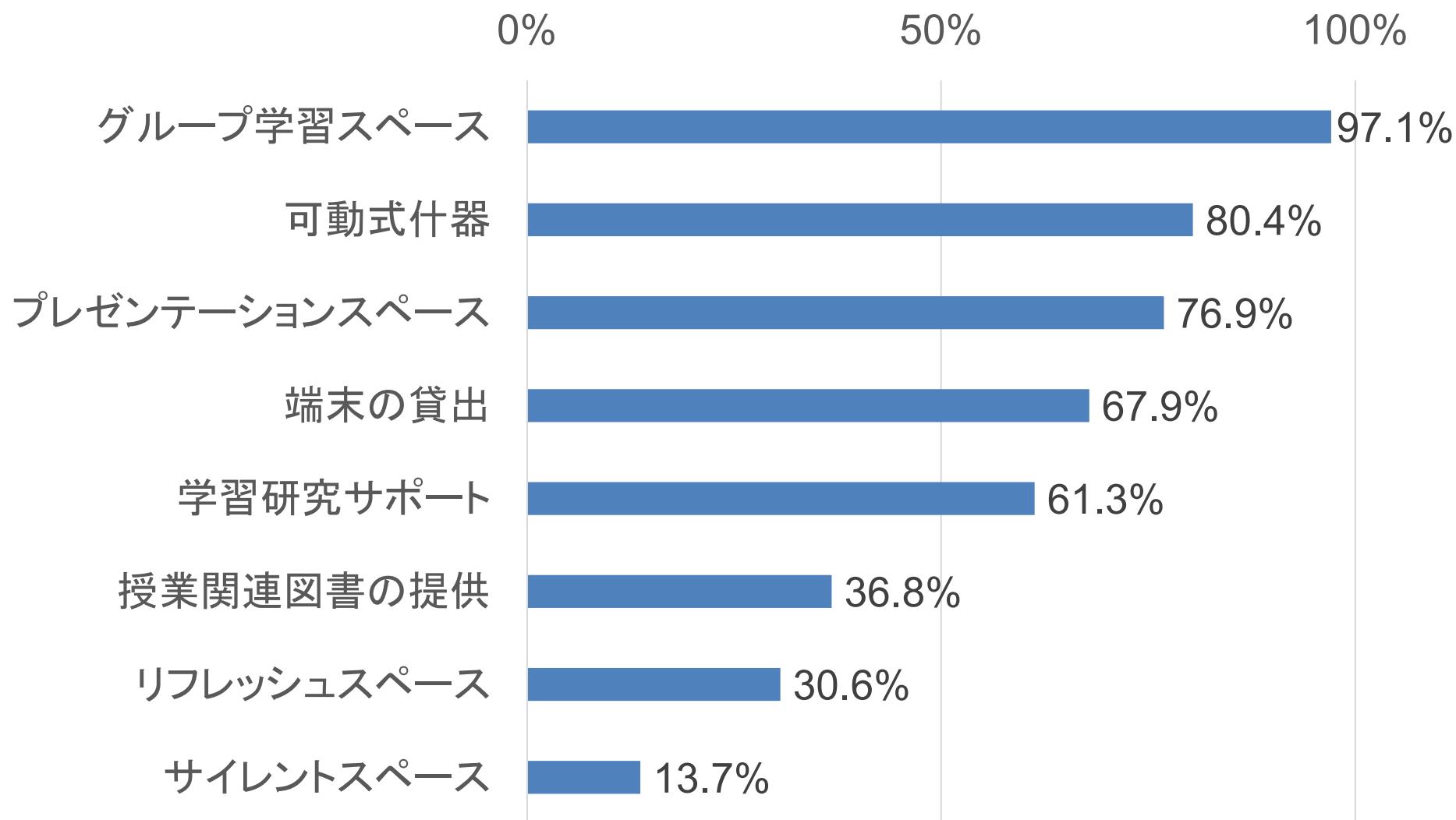
(出典: 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室. 大学における教育内容の改革状況等について(平成27年度)[ほか]. http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1398426.htm, (参照2018-10-20).)

アクティブラーニングスペースの普及状況



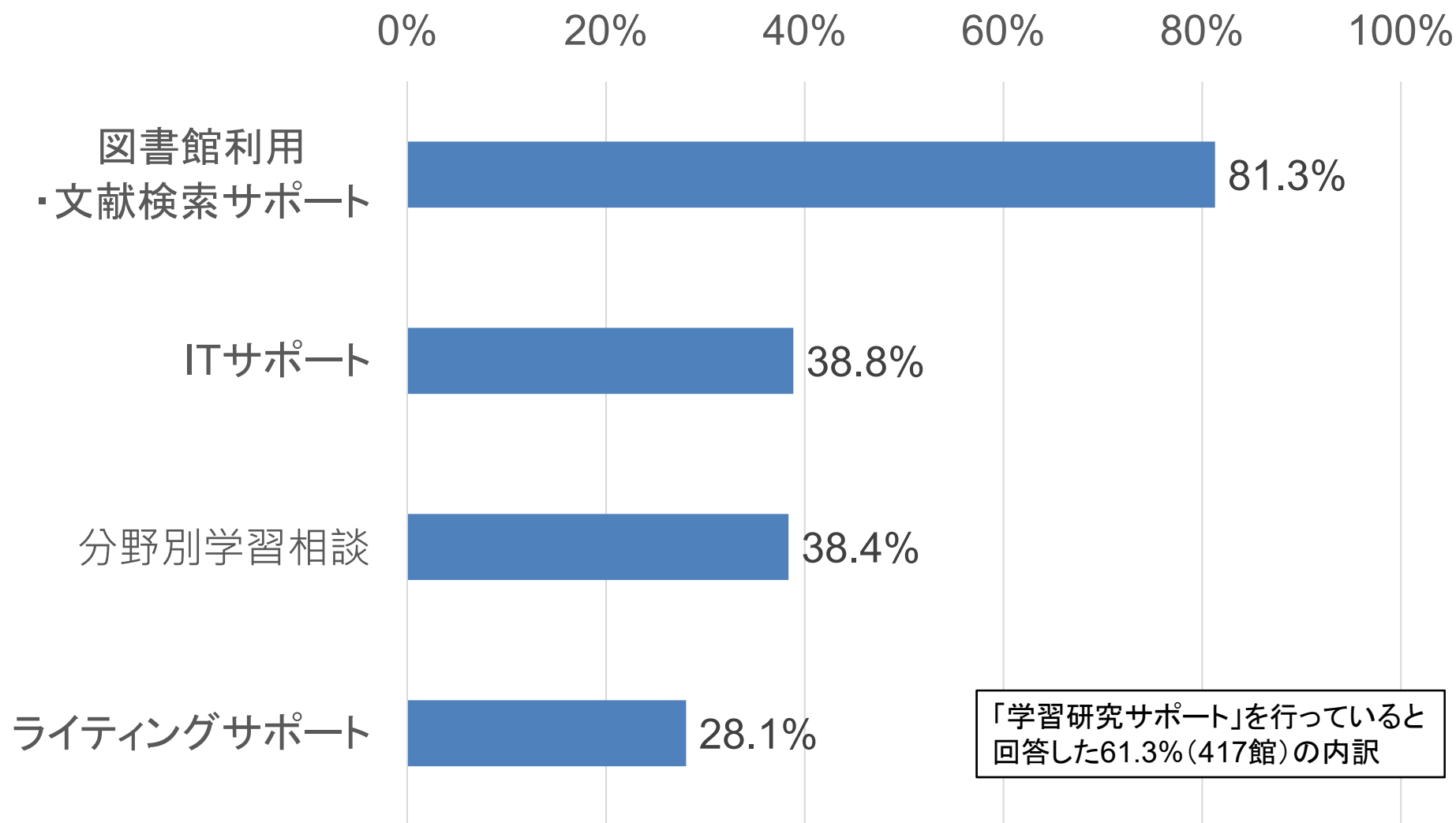
(出典: 文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付. 平成29年度学術情報基盤実態調査結果報告.
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm, (参照2018-10-20).)

アクティブラーニングスペースの内訳(2017)



(出典: 文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付. 平成27年度学術情報基盤実態調査結果報告.
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm, (参照2018-10-20).)

「学習研究サポート」の内訳(2017)



(出典: 文部科学省研究振興局参事官(情報担当)付. 平成29年度学術情報基盤実態調査結果報告.
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm, (参照2018-10-20).)

大学図書館のラーニングコモンズが 備えるべき要件とはなにか

ラーニング・コモンズ learning commons

学生の学習支援を意図して大学図書館に設けられた場所や施設。具体的には、情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の家具や設備が用意され、相談係がいる開放的な学習空間をいう。飲食コーナーが付設されていたり、図書館外に設置される例もある。1990年代に米国で増加し、日本では2000年代後半に導入が始まった。運営については、図書館資料やデータベースの利用と図書館員の常駐は必須とする考え方から、学生が快適に学習する環境があればよいとする考え方まで多様である。「インフォメーションコモンズ」「ラーニングセンター」など名称も一定ではない。図書館という物理的な空間が持つ力を評価する「場としての図書館」の議論が高まる中で、大学図書館を中心にラーニング・コモンズにかかわる多様な試みが見られる。



● Q5 日本の大学では、教育内容・方法等の改善がどれくらい進んでいるのでしょうか。

文部科学省においては、国民の皆様への情報提供のため、また、各大学のより積極的な教育内容等の改善に関する取組を促すため、大学における教育内容・方法の改善等の実施状況について定期的な調査を実施しています。Q1からQ4で紹介した取組以外にも、「開かれた大学」への取組状況や自己点検・評価などの実施状況に関する情報が掲載されていますので、是非ご一読いただければと思います。私たちは、国民の皆様が大学の教育活動についてのご認識とご理解を深めていただくことが、大学の教育活動のより一層の向上につながっていくものと確信しております。（本調査に関する個々のお問い合わせについては、できるだけ迅速に対応させていただきますが、業務の都合上止むを得ず速やかに対応申し上げられないケースも見込まれますので、予めご了承ください。）

- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成27年度\)](#)
- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成26年度\)](#)
- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成25年度\)](#)
- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成24年度\)](#)
- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成23年度\)](#)
- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成21年度\)](#)
- [大学における教育内容等の改革状況について\(平成20年度\)](#)

■ [平成19年度資料](#)

(※報道発表へリンク)

■ [平成18年度資料](#)

(※報道発表へリンク)

■ [平成17年度資料](#)

(※国会図書館ウェブサイトへリンク)

■ [平成16年度資料](#)

3－F 履修指導や学修支援制度等の取組状況（平成 27 年度）

〔大学全体の状況について回答してください〕

- ① 全学的な履修指導または学修支援制度の取組として行っているものを、以下の中から選択してください（n と回答する場合を除き複数回答可）。

- a TA の配置
- b オフィス・アワーの設定
- c アドバイザー制
- d 学修ポートフォリオ（※1）
- e ラーニング・コモンズ（※2）の整備・活用
- f ライティング・センター等、日本語表現力を高めることを目的としたセンター等の設置
- g 大学教育レベルの英語学修を支援するためのセンター等の設置
- h 大学教育レベルの外国語（英語以外）学修を支援するためのセンター等の設置
- i 外国人留学生と日本人学生が、外国語によるコミュニケーションを通じて、国際交流を図る場所の設置
- j 初年次教育を実施するためのセンター等の設置
- k 学生の就職支援のためのセンター等の設置
- l 学生のボランティア活動を支援するためのセンター等の設置
- m 学習支援センター等における個別指導
- n a～m に該当する取組は実施していない
- o その他（取組を具体的に記載してください）

（e～l は、同じセンター等が複数の取組を行っている場合、または平成 27 年度以前に設置されたものが平成 27 年度においても活動を行っている場合も選択可能です。また、f～l は、学内組織としてのセンター等が設置されている場合が対象となります。大学としてはセンター等を置いていないが、大学内で他の機関（大学生協等）が同種の取組を実施しているといった場合は、該当しません。）

（※1）「学修ポートフォリオ」とは、学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表等）を長期的にわたって収集したものを指します。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて達成度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図ること等を目的とするものです。

（※2）「ラーニング・コモンズ」とは、大学図書館等における、学生が学習のために集うことのできる共有スペースを指します。グループ活動エリア、プレゼンテーションエリア、PC 利用エリア等、個人の自習環境に加え、グループワークにも適した学習環境を指しています。

3-C 履修指導や学修支援制度等の取組状況（平成 28 年度）

[大学全体の状況について回答してください]

- ① 全学的な履修指導または学修支援制度の取組として行っているものを、以下の中から選択してください（○と回答する場合を除き複数回答可）。

- a TA の配置
- b オフィス・アワーの設定
- c アドバイザー制
- d 学修ポートフォリオ（※1）
- e アクティブ・ラーニング・スペース（※2）の整備・活用
- f ライティング・センター等、日本語表現力を高めることを目的としたセンター等の設置
- g 大学教育レベルの英語学修を支援するためのセンター等の設置
- h 大学教育レベルの外国語（英語以外）学修を支援するためのセンター等の設置
- i 外国人留学生と日本人学生が、外国語によるコミュニケーションを通じて、国際交流を図る場所の設置
- j 初年次教育を実施するためのセンター等の設置
- k 学生の就職支援のためのセンター等の設置
- l 学生のボランティア活動を支援するためのセンター等の設置
- m 全学共通の教養教育のセンター等の設置
- n 学習支援センター等における個別指導
- o a～nに該当する取組は実施していない
- p その他（取組を具体的に記載してください）

（e～mは、同じセンター等が複数の取組を行っている場合、または平成 28 年度以前に設置されたものが平成 28 年度においても活動を行っている場合も選択可能です。また、f～mは、学内組織としてのセンター等が設置されている場合が対象となります。大学としてはセンター等を置いていないが、大学内で他の機関（大学生協等）が同種の取組を実施しているといった場合は、該当しません。）

（※1）「学修ポートフォリオ」とは、学生が、学修過程ならびに各種の学修成果（例えば、学修目標・学習計画表とチェックシート、課題達成のために収集した資料や遂行状況、レポート、成績単位取得表等）を長期にわたって収集したものを指します。それらを必要に応じて系統的に選択し、学修過程を含めて達成度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図ること等を目的とするものです。

（※2）「アクティブ・ラーニング・スペース」とは、学生が能動的学修のために集うことのできる共有スペースを指します。グループ活動エリア、プレゼンテーションエリア、PC 利用エリア等、個人の自習環境に加え、グループワークにも適した学習環境を指しています。なお、大学図書館等におけるラーニング・コモンズを整備・活用している場合も該当します。

ラーニングコモンズの展開にあたって

- 授業時間外の学習を支援できる学習空間の整備、運用
 - 図書館内外
 - キャンパス内外(デジタル空間)
- 学生の多様な学習スタイルを許容できる空間の設計
 - 学習ニーズの把握
- 高度化する情報環境への対応
 - LMS、電子資料、電子教材
- 学習そのものを支援するサービスの展開
 - 学習用コンテンツの充実
 - 図書館利用(情報リテラシー)、IT利用、学習・研究
- 教育・学習方法の変化への柔軟な対応
 - 教員の教育方法についての理解
 - 教員へのサービスの展開

教員は、ネット社会に抗して、文献を利用することで、学習が進むように授業を組み立てる必要がある。

図書館も、蔵書構成を不断に見直し、学生教育に密着した蔵書構成を実現しなければならない。

そのためには、職員は教員と共同するとともに、教員の教育活動を理解し、かつ意見を持てる力量を養わなければならない。

図書館と図書館職員が、大学の基本的責務である学生教育をいかに担うかと言い換えてもいい。職員は、学生が必要としている文献について、少なくとも探索する手段に関しては、学生以上に精通していて当然である。

ラーニングコモンズにおける図書館員とレファレンスサービス(齋藤 2018)

ブレンディドライブラリアン(blended librarian)

- 図書館員としてのスキルや能力に加え、インストラクショナルデザインと情報技術のスキルや能力を兼ね備えた図書館員のこと。教員や学内他部署と図書館との連携を実現する。

高度な質問回答サービスに対応した体制

- ラーニング・コモンズで、大学図書館が部分的に対応してきたサービスが学内の専門スタッフによって行われるようになれば、図書館員自身も専門業務を先鋭化させることになる。

(出典: 齋藤泰則. ラーニングコモンズとしての大学図書館とレファレンスサービス. 図書の譜: 明治大学図書館紀要. 2018, no. 22, p. 1-10.)

行 動 す る 知 性。



ご清聴ありがとうございました

小山憲司(中央大学文学部)